歴史薫る洛東･山科を見守る登録有形文化財

京都洛東迎賓館

KYOTO RAKUTOGEIHINKAN

国内外の賓客をもてなした迎賓館は幸せな未来への想いが宿る場所

京の風情を宿しつつ、その歴史は京より古い山科の地。京都洛東迎賓館は昭和初期、時の国務大臣、大野木秀次郎によって建てられました。数多くの著名人が京都を訪れた際にはここに集い、日本の未来を語り合ったそうです。建築物としても高い評価を受けており、当時の職人たちが持てる技を最大限に駆使し造られた屋敷には、書や掛け軸…数々の文化財が今もなお展示されています。2011 年、国により登録有形文化財に指定されました。

受け継がれる伝統

展示されている調度品を含め、建物全てに本物の価値が宿る『京都洛東迎賓館』。結婚式場となった現在も、城郭風の外観に書院造を残した居間や、職人の技が光る欄間、レトロな情緒をやさしく演出する和風シャンデリアや擬宝珠を用いた寺院の高欄風の階段親柱など…そのひとつひとつに、かつての趣が漂っています。

多くの文化人や著名人が訪れた『洛東迎賓館』館内には当時交流のあった文化人・著名人の作品や掛け軸など多数展示

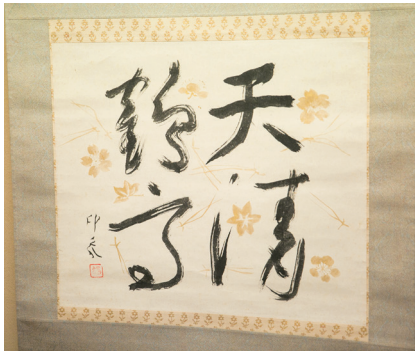

写真１段目【書簡】吉田茂

第 45・48・49・50・51 代 内閣総理大臣。戦後の日本復興に力を尽くした名宰相。その第 3 次吉田内閣第 3 次改造内閣および、第 5 次吉田内閣で国務大臣を務めた大野木秀次郎の自宅を訪れた際に送られた手紙や、訪問の際に書き留めた書などが展示されています。

写真 2 段目【屏風】入山白翁

日本画の範疇にあって工芸的分野を取り入れ、漆画・漆版画という全く新しい世界を築き上げてきました。その名声は国内・外を問わず広く、政財界の著名人がその作品を愛蔵しています。その一つがここ、洛東迎賓館で祝宴に花を添えています。

写真 3 段目【掛け軸】堂本印象

日本画家としてだけでなく、抽象表現や障壁画など活躍の場を広げ、国際的にも活躍。『鶴は一生ひとつの「つがい」をまもる』という言い伝えから「夫婦円満」の象徴として愛され、印象の作品にも数多く描かれました。ここから誕生する多くの新しい家族の幸せを願うオーナーの願いが込められています。

自然風景を見立てた日本庭園と
人の手による
端正な美が魅了するガーデン

広大な 1000 坪もの敷地には、母屋をはじめとした価値のある建造物が軒を連ね、その周囲に二つの庭園が美しい情景を添えています。築山と池泉を備え、起伏に富んだ自然を愛でる日本庭園は、訪れる人が散策して愉しむことができる回遊式。芝生の美しさが目に鮮やかな開放感のあるガーデンは木々や花々がみずみずしい姿をみせます。趣きが異なる二つの庭園はいずれも、春夏秋冬それぞれの表情で皆様をお迎えします。